

【報告】

北海道の博物館の現況についての調査 (III)

On the Present Situation of the Museums in Hokkaido (III)

片 桐 宏 理*
Hiroaki KATAGIRI

1. はじめに

筆者は学芸員に関わる諸問題のより正確な把握と理解を目指すという観点から、これまで北海道内各種博物館の現況を把握するためのアンケート形式による調査を実施してきた。その結果は拙稿「北海道博物館の現況についての調査 (I)」『博物館学雑誌』第12号巻第1号 (1986年12月) および「北海道の博物館の現況についての調査 (II)」『博物館学雑誌』第13巻第1-2号合併号 (1988年3月) においてそれぞれ報告を行った。いずれの場合も調査対象は『北海道博物館ガイド』(北海道博物館協会編、昭和60年3月発行) に収録されている館のうち、動・植物園、水族館、美術館を除外したものである。対象館は235館、回答回収数162館、回収率68.9%、有効数160館であった。

すでに最初の調査から11年を経た現在、道内の博物館はどのような変化を示しているだろうか。又、北海道の博物館を取り巻く現在の状況と問題点とは何だろうか。このような視点に立って今回再度同趣旨の調査を試みた。その結果をここに報告する次第である。

2. 調査内容

今回の調査は基本的に前回までと同様の方法を採用した。対象博物館としては『増補改訂版北海道博

物館ガイド』(北海道博物館協会編、平成3年5月発行) に収録されている館のうち、動・植物園、水族館、美術館を除外したものとした。実施時期は平成9年4月から6月までである。調査対象は前回調査対象とした博物館235館、およびその後設立された博物館25館、計260館である。設問内容は前回と同一のものをアンケート形式で実施した。

対象館260館のうち、回答回収数は142館、回収率54.6%、有効数139館であった。前回と比較して回収率が18館減、回収率14.3%減であった。

アンケートの設問は32問。前回同様、設問は以下のグループに大別される。

- I. 設立に関する設問
- II. 運営形態に関する設問
- III. 組織に関する設問
- IV. 施設に関する設問
- V. 業務に関する設問
- VI. その他

以下、I、II、III、IV、V、VIと表記する場合には前期の分類に従っているものとする。

3. 調査結果

以下、調査結果は、各設問に対する回答を図表で示すこととする。

*札幌学院大学

平成10年1月14日 受理

I. 設立に関する設問

表 1. 設置区分

設置区分	館数
国 立	2
道 立	3
市 立	43
町 立	70
村 立	4
そ の 他	17
合 計	139

図 1. 設置区分

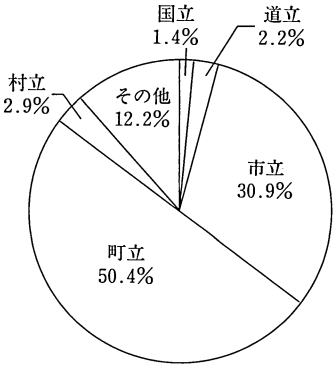


図 2. 開設年

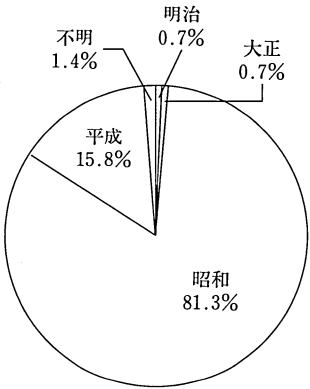


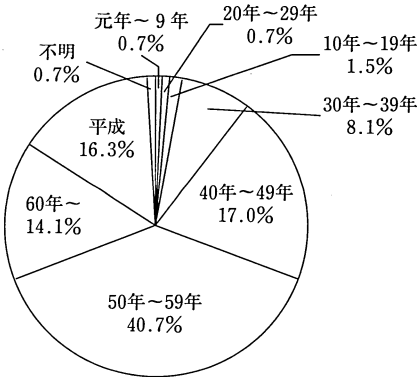
表 2. 開設年

開設年号	館数
明 治	1
大 正	1
昭 和	113
平 成	22
不 明	2
合 計	139

表 3. 昭和、平成の内訳

昭和・平成の内訳	館数
元年～ 9 年	1
10年～19年	2
20年～29年	1
30年～39年	11
40年～49年	23
50年～59年	55
60年～	19
平 成	22
不 明	1
合 計	135

図 3. 昭和、平成の内訳



設置区分を見ると、50%を越える館が町立である (表 1、図 1)。

開設年は、明治・大正時代の開設がそれぞれ 1 館ずつ、他はすべて昭和及び平成である。もっとも開設の多い時期は昭和50年から59年の期間である。平

成に入って22館開設されている (表 2、図 2、表 3、図 3)。

開設主旨について見てみると、やはり町立が多いためか、郷土博物館に代表された比較的狭い地域における文化財保護、民俗資料収集などを目的とする

表 4. 博物館の種類

博物館の種類	館数
総 合	35
考 古	5
歴 史	45
民 俗	14
科 学	15
そ の 他	24
無 回 答	1
合 計	139

図 4. 設置区分

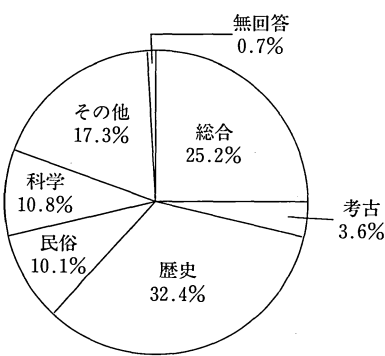


図 5. 所在地（市庁）

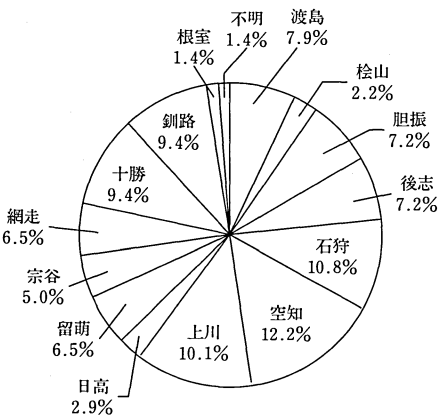


表 5 所在地

支庁	館 数
渡 島	11 (2)
檜 山	3
胆 振	10 (1)
後 志	10 (3)
石 狩	15 (3)
空 知	17 (1)
上 川	14 (3)
日 高	4
留 萌	9 (4)
宗 谷	7
網 走	9 (1)
十 勝	13 (1)
釧 路	13 (1)
根 室	2 (1)
不 明	2 (1)
合 計	139 (22)

() は平成を表わす

図 6. 立地条件

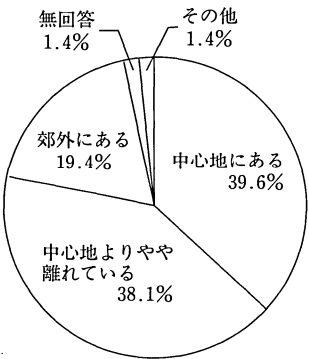


表 6. 立地条件

立 地 条 件	館 数
中 心 地 に あ る	55 (9)
中心地よりやや離れている	53 (11)
郊 外 に あ る	27 (1)
そ の 他	2
無 回 答	2 (1)
合 計	139 (22)

() は平成を表わす

ものが多い。平成に入って開設された博物館の趣旨も昭和の場合とほぼ変わらない。

博物館の種類では、一番多いのは歴史で32.4%、次いで総合25.2%、以下はその他、民俗、考古の順である。前回の調査ではその他に類別される館が35.6%、総合が35.2%、歴史、科学、民俗、考古の順であった。

順位が変わった要因としては、アンケート実施上の問題がないわけではない。アンケートの回収数が減少したことや、同一館で前回と異なる回答のあった館があったことなどに加えて、設問に選択肢の分類基準を明示しないまま実施したことも原因となっているだろう。ただし、平成に入って歴史博物館、

総合博物館が各6館増えていることも見逃せない(表4、図4)。

所在地については、支庁別に見ると、前回同様人口と館数の間に相関関係があることがわかる。平成に入って出来た22館に関しては、留萌支庁が他支庁に較べて人口が比較的少ないにもかかわらず4館設置されているのが目立つ。後志、石狩、上川支庁ではそれぞれ3館ずつ設置されている(表5、図5)。

立地条件では、中心地にある館が39.6%、中心地よりやや離れていると答えた館が38.1%となっている。平成に入って出来た博物館は、中心地にある館が40.9%、中心地よりやや離れている館が50.0%となっている(表6、図6)。

II. 運営形態に関する設問

表 7. 開館時間

		館数	(閉 館 時 刻)									
			15 : 00	15 : 30	16 : 00	16 : 30	17 : 00	17 : 15	17 : 30	18 : 00	19 : 00	20 : 00
(開 館 時 間)	8 : 00	3					2			1		
	8 : 30	4				1	2		1			
	8 : 45	1						1				
	8 : 50	1					1					
	9 : 00	71		1	5	10	49		1	3	2	
	9 : 30	24			3	13	8					
	10 : 00	32	2		14		12		1	2		1
	13 : 00	1					1					
	13 : 30	1			1							
	計	138	2	1	23	24	75	1	3	6	2	1

表 8. 休館日

休館日	館 数
あ り	122 (20)
な し	11 (2)
無 回 答	2
不 明	4
合 計	139 (22)

() は平成を表わす

図 7. 休館日

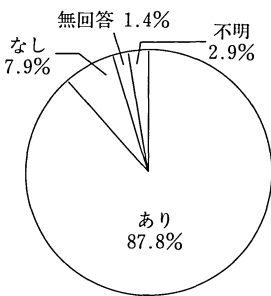


表 9. 休館曜日

特定休館曜日	館数
月 曜	81
火 曜	5
水 曜	4
日 曜	5
合 計	95

図 8. 特定休館曜日

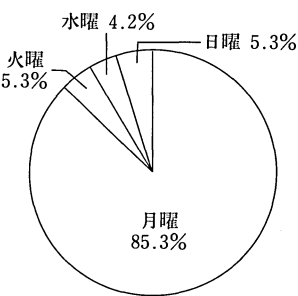


表10. 入館料の徴収 図9. 入館料の徴収

入館料の徴収	館数
している	80
していない	57
無回答	2
合計	139

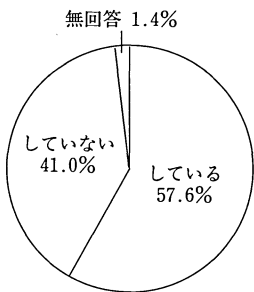


表11. 団体割引制度 図10. 団体割引制度

団体割引制度	館数
あり	75
なし	4
無回答	1
合計	80

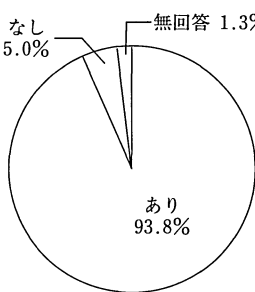


表12. 有料の内訳

	大人	大学生	高校生	中学生	小学生
20円	1	1	1	1	1
30					1
40				2	2
50	1	3	7	26	23
60			4	2	2
70					1
80		1	1		1
100	21	18	14	22	28
120		1	3	1	1
150	4	9	6	7	1
200	21	20	19	5	4
250	2	2	1	2	2
300	14	11	8	3	1
350	1	4	4	1	
400	5	3	1	1	1
500	4	3	2	1	1
600	3	1	2		
700		2	1		
800					
900	1	1	1		
1000	2				
	80	80	75	74	70

図11. 来館者の推移

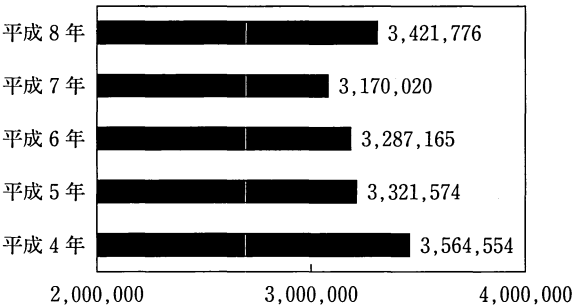
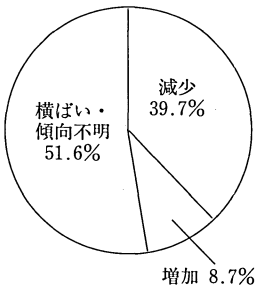


図12. 来館者増・減館 表13. 来館者増・減館



来館者増・減館	館数
減少	50
増加	11
不明	65
合計	126

開館時間は、午前9時から午後5時までが1番多く、以下午前10時から午後4時、午前10時から午後5時、午前9時30分から午後4時30分までとなっている。平成に入って出来た博物館は、午前9時から午後5時までが多くつづいて午前10時から午後5時までとなっており、他時期に出来た博物館とあまり変わっていない(表7)。

休館日については、ありが122館(87.8%)で年中無休が11館(7.9%)である。又、毎週特定曜日1日

のみとする館が多く95館あり、そのうち月曜日休館が81館(85.3%)と一番多い。平成に入って出来た博物館は、休館日についてありが20館(90.9%)、なしが2館(9.1%)である(表8、図7、表9、図8)。

入館料は、有料が80館(57.6%)、無料が57館(41.0%)である。その内、団体割引制度を有しているのが75館(93.8%)である(表10、図9、表11、図10)。

料金では、大人、大学生、高校生の場合、100円、200円に集中しており、低学年の小中学生は、50円、

100円に集中している。(表12)。

来館者数は、全体的には減少している。平成4年から7年の間に39万人も減少しているのが目につく(図11)。

過去3年間において、来館者数が増加している11

館は、石狩支庁、留萌支庁などである。逆に減少している50館で最も減少が目立つのは釧路支庁、渡島支庁、上川支庁、網走支庁、胆振支庁などとなっている(表13、図12)。

III. 組織に関する設問

表14. 館長の区分

館長	館数
常勤	62 (11)
非常勤	51 (8)
なし	8
無回答	18 (3)
合計	139 (22)

()は平成を表わす

図13. 館長の区分

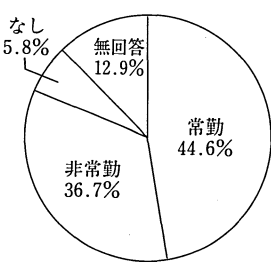


表15. 学芸員数

学芸員数	館数	%
0人	76館 (8館)	54.7% (36.4%)
1	37 (7)	26.6 (31.8)
2	10 (3)	7.2 (13.6)
3	4	2.9
4	6 (1)	4.3 (4.5)
5	2 (1)	1.4 (4.5)
6	1 (1)	0.7 (4.5)
7	1 (1)	0.7 (4.5)
13	1	0.7
30	1	0.7
合計	139 (22)	99.9 (99.8)

()は平成を表わす

表16. 学芸員の年齢構成

学芸員の年齢構成	20代	30代	40代	50代	60代	合計
常勤	41 (13)	44 (9)	40 (9)	22 (3)	4	151
非常勤	1 (1)	1	6	0	1	9
合計	42 (14)	45 (9)	46 (9)	22 (3)	5	160 (35)

()は平成を表わす

図14. 学芸員の年齢構成

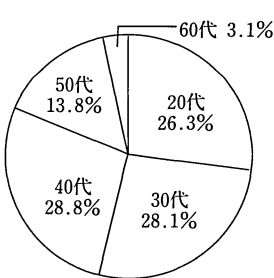


表17. 学芸員補数(常勤)

学芸員補数(常勤)	館数
0人	131
1人	7
11人	1
合計	139

図15. 学芸員補数(常勤)

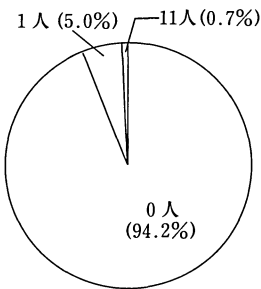


表18. 事務職員数(常勤)

事務職員数(常勤)	館数
0人	66
1人	22
2人	23
3人	10
4人	7
5人	3
6人	5
7人	1
11人	1
12人	1
合計	139

図16. 事務職員数(常勤)

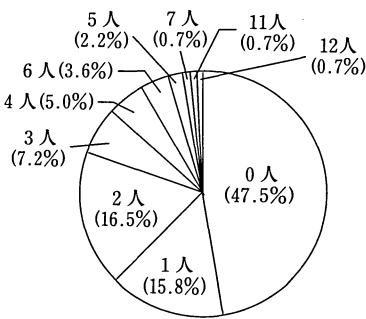


表19. その他の職員数(常勤)

その他の職員数(常勤)	館数
0 人	97
1 人	21
2 人	5
3 人	5
4 人	5
5 人	2
6 人	2
7 人	1
11 人	1
合 計	139

図17. その他の職員数(常勤)

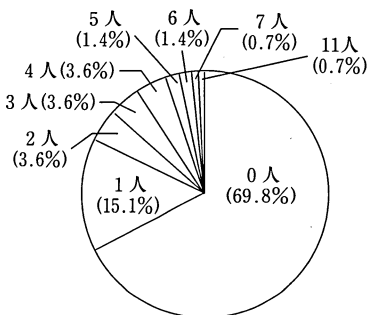
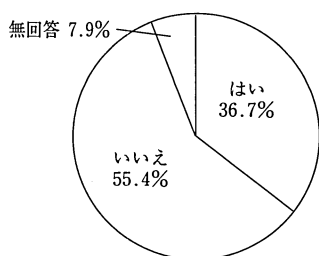


表20. 現行スタッフで十分

現行スタッフで十分	館数
は い	51
い い え	77
無 回 答	11
合 計	139

図18. 現行スタッフで十分



館長については、いると答えたのは81.3%。そのうち常勤が44.6% (62館)、非常勤が36.7% (51館)、なし無回答18.7%となっており、常勤館長は全体の50.0%に達していない。平成に入って出来た博物館では常勤が50.0% (11館)、非常勤36.4% (8館)、無回答13.6% (3館)でかろうじて常勤が半分になっている (表14、図13)。

学芸員数については、いないと答えたのは54.7%、いると答えたのは45.2%、そのうち33.8% (47館)は1～2人である。平成に入って出来た博物館では、いないと答えたのは36.4% (8館)、1～2人配置しているのは45.4% (10館)。前回同様、人的整備は進んでいないと言える (表15)。

学芸員の年齢構成では40代が28.7% (46人)、30代が28.1% (45人)、20代が26.3% (42人)と接近している。前回の調査では40代が23.3% (27人)、30代が52.1% (63人)、20代が10.7% (13人)となっていた。平成に入って出来た博物館では40代が25.7% (9人)、30代が25.7% (9人)、20代が40.0% (14人)と

なっており、平成以降若い学芸員の採用が進んでいることがうかがわれる (表16、図14)。

学芸員補数については、配置している博物館は5.7% (12人)と非常に少ない。平成に入って出来た博物館においてはゼロである。全体的傾向として学芸員を含めた博物館業務が等閑視されていると考えられる (表17、図15)。

事務職員数は、47.5% (66館)と半数近くで常勤がゼロである。ゼロでは博物館運営に支障をきたすと思われるので学芸員あるいは館長等が兼務している可能性がある (表18、図16)。

その他の職員 (ボイラーマン等) については、69.8% (97館)がゼロである。いると答えたのは30.1% (42館)と前回とほぼ同じである。平成に入って出来た博物館は、ゼロが77.3% (17館)。いると答えたのはわずか22.7% (5館)である (表19、図17)。

職員の充足性では、不足が55.4%、そのうち71.0%が学芸員が不足していると回答している。前回とほぼ同じ結果が見られる (表20、図18)。

IV. 施設に関する設問

表21. 駐車場

駐車場	館 数
あ り	121 (20)
な し	18 (2)
合 計	139 (22)

()は平成を表わす

図19. 駐車場

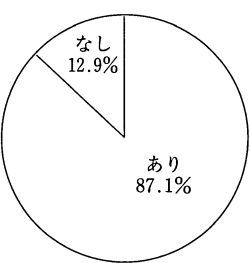


表22. 売 店

売 店	館 数
あ り	32
な し	106
無 回 答	1
合 計	139

図20. 売 店

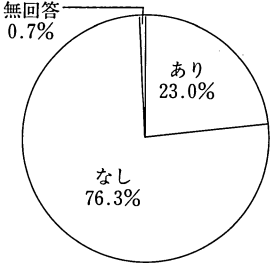


図21. ロッカー

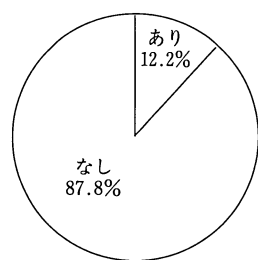


表23. ロッカー

ロッカー	館 数
あ り	17
な し	122
合 計	139

図22. 現在の施設で十分

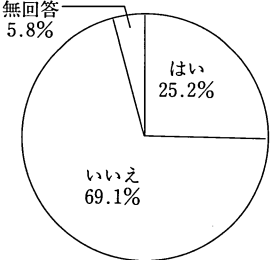


表24. 現在の施設で十分

現在の施設で十分	館数
は い	35
い い え	96
無 回 答	8
合 計	139

表25. 不十分箇所

個所、部分名	館数	無い	狭い	不備	老朽	不足
全 体	24	1	8	2	13	
常設展示室	36		31	2	2	1
特別展示室	19	9	10			
収 蔵 庫	42	6	34	1		1
研 究 室	7	5	2			
研 修 室	7	5	2			
講堂・講義室	3	1	2			
視 聴 覚 室	3	1		1	1	
図 書 室	1	1				
作業・整理室	2	2				
体験学習室	2	2				
会 議 室	1	1				
休 息 室	2	1	1			
事 務 室	3		3			
駐 車 場	1	1				
調査用設備	1			1		
研究用設備	1			1		
整理用設備	1			1		
物 品 庫	1	1				
相 談 室	1	1				
多 目 的 室	1	1				
標本管理設備	1			1		
科学実験設備	1	1				

表26. 増改築の予定

増改築の予定	館 数
は い	20
い い え	117
無 回 答	2
合 計	139

図23. 増改築の予定

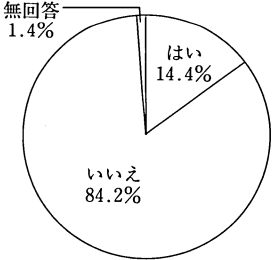


表27. 増改築予定内訳

増改築の予定内訳	館数
全 体	7
常設展示室	3
特別展示室	2
収 蔵 庫	5
図 書 室	1

表28. 施設の面積

区 分	都道府県・指定都市	市町村立
展示・教育関係活動	(2,500㎡) 4 館	(850㎡) 24館
保 管・研 究 関 係	(2,500㎡) 0	(850㎡) 2
管 理・そ の 他	(1,000㎡) 12	(300㎡) 19

駐車場の設置状況については、ありと答えたのは87.1%、この数字は前回の調査より7.1%も多くなっている。又、平成に入って出来た博物館は、ありが90.9%（20館）と高い。これはII、運営形態に関する設問の項で説明したように、市町村の中心から比較的離れた場所（郊外含む）に立地していること（57.5%）に比例する。北海道では1世帯あたりの自動車の保有台数が1台^(四)とかなり高いなど、交通上の問題が反映しているものと思われる。ちなみに前回の調査では1世帯あたりの保有台数は0.71台であった（表21、図19）。

売店については、ありが23.0%（32館）、なしが76.3%（106館）。前回からみるとありが4.3%高くなっている。又、ありの内訳をみると前回同様、学芸員が複数の館、経営母体が財団、会社、その他私企業に置く場合に多い（表22、図20）。

ロッカーはありが12.2%と前回より5.3%多くなっている（表23、図21）。

施設の充足性については、現在の設備で充分と答えたのは25.2%（35館）。前回と比較すると7.7%充足性が満たされている。内訳をみると前回同様小規模な市町村に多くみられる（表24、図22）。

不十分箇所については、特別展示室不足が9館、前回の調査では22館、収蔵庫不足は6館、前回の調査では12館、研究室不足は5館、前回の調査では9館と不足している箇所は同じでも数は少なくなっている。又、狭いと感じられている箇所では、前回同様常設展示室31館、所蔵庫34館となっている（表25）。

増改築の予定については、ありと答えたのは14.4

%（20館）。前回より6.9%低い。なしが84.2%（117館）である。内訳をみると全体（新築）は7件、収蔵庫5件、常設展示室2件となっている。過去3年間の増改築の実績は、ありが14.4%（20館）、なしが82.0%（114館）である（表26、図23、表27）。

施設面積については、「公立博物館の設置及び運営に関する基準」の第5条および「公立博物館の設置及び運営に関する基準について」の5、第5条が示す基準によれば、都道府県および指定都市の設置する博物館にあっては6,000平方メートルを確保すべきことになっている。回答をみるとこの基準を越える館は前回の調査同様1館のみであった。

用途別面積に関する基準では、展示・教育活動関係の場合、都道府県立・指定都市立基準2,500平方メートルだが、これを越える館は前回の調査より3館多い4館であった。市町村立基準850平方メートルに対しては、これを越える館は前回の調査より9館多い24館である。保管・研究関係の場合、都道府県立・指定市立2,500平方メートルを越える館は前回同様0館、市町村立基準850平方メートルを越える館は、前回の調査より1館多い2館である。

管理・その他では、都道府県立・指定都市立基準1,000平方メートルを越える館は前回の調査より10館多い12館である。市町村立基準300平方メートルを越える館についても前回の調査より4館多い19館である。建物の面積についてはいずれも前回の調査よりも基準を越える館が増えていることがうかがわれる（表28）。

V. 業務に関する設問

表29. 過去3年間の
常設展示替えの有無

区 分	館 数	%
あ り	51	36.7
な し	80	57.6
無回答	8	5.8
合 計	139	100.1

表30. 特別展を実施しているか

区 分	館数	%
し て い る	71	51.1
し て い な い	65	46.8
無 回 答	3	2.2
合 計	139	100.1

表31. 実施しない理由

しない理由	館数
予算的	14
場所が無い	12
（専門の）職員が不足	3
別の事業に重点を置いている	1
別の機関・団体で実施	1
時期早尚、その段階にない	1
必要性が無い	1
余力がない	1
体制不備	1
時間不足	1

表32. 展示対象地域

展示対象地域	館数
(市・町・村)内	85
支庁管内	8
圏内	3
限定していない	36
北海道全域	6
その他	1
合 計	139

図24. 展示対象地域

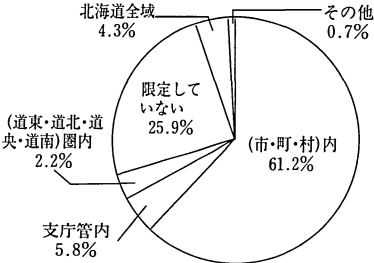


表33. 過去3年間の相互貸借

過去3年間の相互貸借	館数
毎年1回程度	32
毎年数回程度	18
毎年頻繁	4
3年に1回程度	12
なし	51
無回答	22
合 計	139

図25. 過去3年間の相互貸借

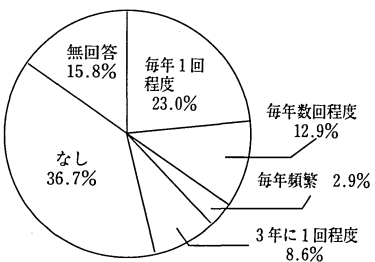


表34. 実験・実習製作等の
体験学習をしているか

区 分	館 数
している	52 (15)
していない	84 (7)
無 回 答	3
合 計	139 (22)

()は平成を表わす

図26. 体験学習の実施

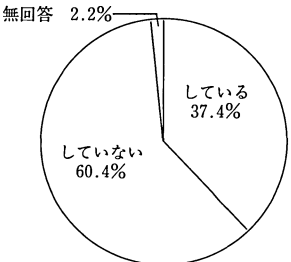


表35. 体験学習を実施しない理由

体験学習実施しない理由	館数
予算的	17
(専門の) 職員が不足	10
場所が無い	10
別の機関・団体で実施	3
必要性が無い	3
体制不備	3
別の事業に重点を置いている	2
特に理由はない	2
余力がない	2

表36. 実施回数

年度	4	5	6	7	8	9
実施回数						
1 回	6	8	11	12	12	11
2	7	9	7	8	9	8
3	5	4	5	3	4	4
4	4	4	4	5	5	5
5	1	1	1	2	1	2
6	4	3	1			2
7	1	1	2	2	4	1
8		1		1		1
9	1					1
10					1	
11			1	1	1	
12	1	3	1	3		2
13			2		2	
合 計	30	34	35	37	39	37

図27. 見学会観察会の実施

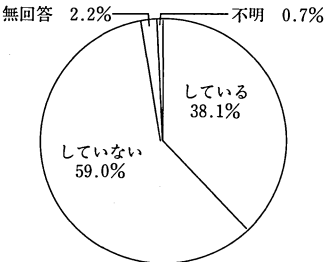


表37. 見学会・観察会等を
実施しているか

区 分	館 数
している	52 (15)
していない	84 (7)
無 回 答	3 (1)
不 明	1
合 計	139 (22)

()は平成を表わす

表38. 体験学習を実施しない理由

見学会観察会実施しない理由	館数
予算的	13
(専門の) 職員が不足	6
必要性が無い	4
別の方法で実施	3
別の機関・団体で実施	3
要望が無い	2
体制不備	2
別の事業に重点を置いている	1
事故等に対する補償問題	1
準備・検討中	1
特に理由はない	1
余力がない	1

表39. 実施回数

年度 回数	4	5	6	7	8	9
1 回	16	20	20	17	15	19
2	2	2	4	6	6	3
3	6	6	4	3	3	5
4	4	3	5	3	3	5
5～9	3	4	3	5	5	6
10～19	2	4	6	5	5	5
20回以上	3	2	2	3	3	3
合 計	36	41	44	42	41	47館

表42. 紀要(研究報告含む)を
刊行しているか

区 分	館 数
している	23 (6)
していない	111 (15)
無 回 答	5 (1)
合 計	139 (22)

() は平成を表わす

図28. 館報、年報等の発行

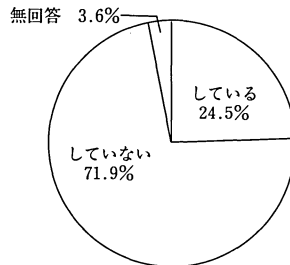


表43. 刊行回数

年度 実施回数	4	5	6	7	8	9
1	11	11	15	15	18	15
2		1	1	2	2	1
3		1			1	
4	1		1			1
合 計	12	13	17	17	21	17館

図29. 紀要の刊行

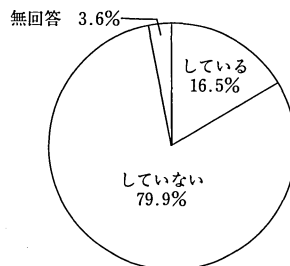


表45. 友の会、サークルの組織

友の会、サークルの組織	館数
している	38
していない	99
無 回 答	2
合 計	139

図30. 友の会、サークルの組織

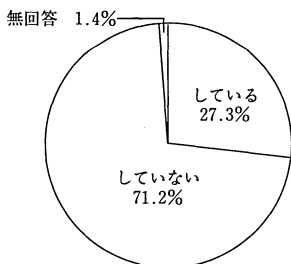


表46. 現在の会員数

人 数	館数	人 数	館数
1 ～ 19	10	100～299	11
20 ～ 39	9	300～499	3
40 ～ 59	2	500 以上	1
60 ～ 79	1	無 回 答	1
			38

表40. 館報、年報等の発行

区 分	館 数
している	34館 (10館)
していない	100 (10)
無 回 答	5 (2)
合 計	139 (22)

() は平成を表わす

表41. 館報・年報発行しない理由

館報・年報発行しない理由	館数
予算的	26
(専門の) 職員が不足	13
別の方法で実施	5
体制不備	3
時間不足	3
別の機関・団体で実施	2
必要性が無い	2
余力がない	2
場所が無い	2
別の事業に重点を置いている	1
準備・検討中	1
特に理由はない	1
時期尚早、その段階にない	1

表44. 紀要刊行しない理由

紀要刊行しない理由	館数
予算的	26
(専門の) 職員が不足	13
別の方法で実施	5
体制不備	3
時間不足	3
別の機関・団体で実施	2
必要性が無い	2
余力がない	2
場所が無い	2
別の事業に重点を置いている	1
準備・検討中	1
特に理由は無い	1
時期尚早、その段階にない	1

表47. 友の会、サークル組織しない理由

友の会、サークル組織しない理由	館数
予算的	11
別の機関・団体で実施	7
(専門の) 職員が不足	6
準備・検討中	4
特に理由は無い	3
必要性が無い	3
要望が無い	2
余力がない	2
別の事業に重点を置いている	1
体制不備	1

表48. 地域の小中学校との交流

地域の小中学校との交流	館数
あ り	112
な し	25
無 回 答	2
合 計	139

表49. 地 域 交 流

地 域 交 流	館数
学校単位で見学に来る	98
子ども中心の友の会を組織	6
子ども中心の体験学習等を実施	28
子ども中心の見学会、観察会を実施	18
その他	7

過去3年間の常設展示の展示替えについては、ありが36.7%、なしが57.6%となしが上回っている。ありの回答のうち、50.1%の館には学芸員が配置されている。他の50.0%は学芸員ではなく、他の職員の手によって展示替えを行っているようである。実施回数については年1回というのがもっとも多い。平成4、6、8年には、10回以上実施しているところもある(表29)。

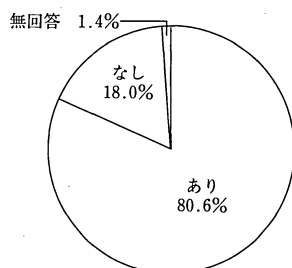
特別展示の実施については、実施しているが51.1%である。平成に入って出来た博物館においては、特別展の実施は72.7%(16館)と高い。又、そのうち12館は学芸員を配置している。実施しない理由は、予算不足14館、場所がない12館、職員不足の順で前回と同じ理由である(表30、表31)。

展示対象地域は博物館の設置されている市町村がもっとも多く85館、限定していない館は36館となっている(表32、図24)。

過去3年間の博物館相互の資料の貸借については47.4%と半数近くが他館とのつながりをもっている。頻度については1回程度が23.0%と1番多い(表33、図25)。

実験・体験学習については、実施している館37.4%、実施回数では6年間で1回が6館～12館ともっとも多い。前回の調査とほぼ同じである。又、実施している館の57.0%は学芸員を配置している。平成に入って出来た博物館では22館中、15館が実施している。実施している15館中、12館は学芸員を配置している。実施しない理由は、予算不足17館、職員不

図31. 地域の小中学校との交流



足10館、場所がない10館の順になっている(表34、図26、表35、表36)。

見学会、観察会については、実施しているが38.1%、していないが59.0%となっている。実施回数では、1回が15～20館ともっとも多い。平成に入って出来た博物館は50.0%が実施している。実施している博物館はすべて学芸員を配置している。実施しない理由は、予算不足13館、職員不足、必要がないの順になっている(表37、図27、表38、表39)。

館報・年報等については、発行しているが24.5%、発行していないが71.9%の比率になっている。発行している館の78.6%が学芸員を配置している。前回の調査の比率もほぼ同じである。平成に入って出来た博物館では、発行しているが50.0%(11館)、実施している博物館はすべて学芸員を配置している。発行しない理由は、予算不足26館、職員不足13館、別の方法で実施しているの順になっている(表40、図28、表41)。

紀要については、発行しているところは、16.5%(23館)、普及活動に関するアンケート項目中もっとも低い割合である。前回の調査と比較すると1.1%上回っている。平成に入って出来た博物館は、22館中6館と非常に低い割合である。学芸員の存在が求められるゆえんでもある。発行回数は、1回がもっとも多い。発行しない理由は、予算不足が30件、職員不足が12件、別の方法で実施の順になっている(表42、図29、表43、表44)。

友の会・サークルの組織はしているが27.3%、していないが73.8%である。会員数は1～19名が10館、20～99名が9館、100～199名が8館、200名以上が7館の順になっている。最大で921名になっている。前

回の最大は567名であった。組織しない理由は、予算不足が11館、別の機関でやっている7館、職員不足6館の順になっている（表45、図30、表46、表47）。

地域の小中学校（生）との交流については、ありが80.6%（112館）と圧倒的に多く普及活動に関する項目中1番高い割合である。ほとんどの館で地域の学校との交流を重要視していることが判る。ありの内訳は前回同様、社会科等の授業に関連して、学校単位で行う見学が98件と最も多い（表48、図31、表49）。

VI. その他

表50. 大学からの実習生の受け入れ

大学からの実習生の受け入れ	館数
し て い る	28
し て い な い	108
無 回 答	3
合 計	139

図32. 大学からの実習生の受け入れ

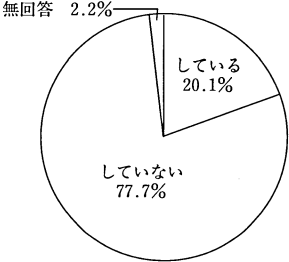


表53. 予算はどの点で不十分か

予算はどの点で不十分か	館数
展示替えの予算なし	31
展示替えの予算不足	29
特別展の予算なし	18
特別展の予算不足	26
研究費の予算なし	28
研究費の予算不足	17
普及活動の予算なし	14
普及活動の予算不足	39
情宣活動の予算なし	16
情宣活動の予算不足	19
全体的に不足	7
資料収集予算不足	1
管理予算不足	4

大学の学芸員課程等からの博物館実習生の受け入れについては、しているが20.1%（28館）、前回の調査では20.0%（32館）、ほぼ同じである。平成に入って出来た博物館では、22館中8館が受け入れている。受け入れない理由は、職員が不足している、体制不備、準備検討中の順である。前回の調査では、準備中が1件だが今回は9件に増えている（表50、図32、表51）。

予算に関する設問では、現在の予算が博物館活動に充分対応しうるものという回答を寄せたのは139

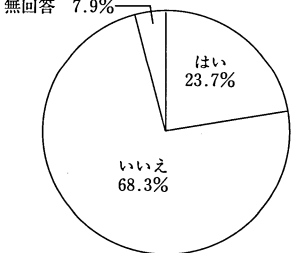
表51. 大学からの博物館実習生受け入れない理由

大学からの博物館実習生受け入れない理由	館数
(専門の) 職員が不足	20
体制不備	10
準備・検討中	9
要望が無い	5
時間不足	4
場所が無い	3
博物館機能がない	2
別の機関・団体で実施	2
余力がない	2
別の事業に重点を置いている	1
特に理由は無い	1
予算的	1

表52. 現在の予算は十分か

現在の予算は十分か	館数
は い	33
い い え	95
無 回 答	11
合 計	139

図33. 現在の予算は十分か



館中33館（23.7％）に過ぎない。又、前回の調査も160館中33館（20.6％）と非常に低い。どういう点で不十分かという回答の内訳は、展示替えの予算なし31件、展示替えの予算不足29件、普及活動の予算不足39件、特別展の予算不足26件と博物館活動の中心に関わる面での予算が不足している。前回の調査とほぼ同様の内訳である（表52、図33、表53）。

4. まとめ

本稿の目的は、11年前の博物館が現在どのように変化しているかを確認し、北海道の博物館の問題点を把握する手掛を見出すことにある。前回調査同様、組織に関する設問の項で判明したように、本来必ず配置しなければならない学芸員のいない博物館が全体の54.7％（76館）。前回の調査では61.3％（99館）である。さらに組織に関する設問の項で判明したように、職員の充足度では不足が66.7％、そのうち71.0％に学芸員の不足がみられる。これは前回の調査とほぼ同じである。

施設に関する設問でも、現在の施設で充分という回答は25.2％（35館）、前回の調査と比較すると7.7％は良くなっているがまだまだ低い状態である。

予算については、充分と答えたのは23.7％、前回の調査では20.6％、依然として問題をのこしている。

平成に入って出来た博物館は、職員の充足性では、22館中12館は充足していると答えており、予算については充分と回答している館が11館ある。又、特別展の実施、見学会・観察会等の実施、館報の発行、紀要等の発行については平成に出来た博物館はそれ以前に出来た博物館より10.8～21.6％も上回っている。全体的にみて平成に出来た博物館の方が、人的にも予算、普及活動、いずれの面でも向上しているようだ。

最後になったが、今回の調査は札幌学院大学北海道史担当船津功教授のもとで実施したものであり、その全面的な助言とご指導に感謝する次第である。又、今回のアンケートご協力いただいた各博物館の職員の方々にも、この場を借りて心から感謝の意を表したい。

（注）

- 1) 『北海道自動車統計』財団法人北海道陸運協会編、平成9年度版 P.1